

宮崎県鳥獣被害対策プロジェクト推進計画に基づく鳥獣被害対策特命チームの主な取組について（R6）

農水産物被害対策部会

《地域が一体となって取り組む「被害防止対策」》

- (1) 集落対策の推進
 - ・各地域特命チーム会議が集落点検の実施や集落ビジョンの作成を支援
- (2) 総合的な被害防止対策の実施
 - ・侵入防止柵設置前後の研修の実施や集落にあるえさ場やひそみ場の除去
 - ・カワウの生息状況の調査や駆除、ドライアイスを活用した繁殖抑制対策を実施
- (3) モデル集落育成と優良事例の波及（「重点現地支援」）

地域	支援対象地区	加害獣	対応状況（令和7年5月現在）
西臼杵	日之影町小原	イノシシ、シカ	集落ビジョンの作成、水稲、菜等の被害防止のためのワイヤーメッシュ柵導入
中部	高岡町の野	イノシシ、シカ、サル	柵設置前の研修会や設置後の点検の実施、水稲の被害防止のための複合柵を導入
南部	串間市みのさき	イノシシ	侵入防止柵設置に向けた環境点検や研修会を実施
北諸県	高城町雀ヶ野	イノシシ、シカ、サル	集落環境点検や柵設置前研修の実施。水稲、露地野菜等の被害防止のための複合柵を導入
西諸県	小林市須木内山	イノシシ、シカ	柵設置前研修や設置後の点検を実施。水稲、飼料作の被害防止のためのワイヤーメッシュ柵を導入
児 湯	川南町掛迫	イノシシ、シカ	柵設置前研修や設置後の点検を実施。水稲、飼料作の被害防止のためのワイヤーメッシュ柵を導入
東臼杵	北方町蔵田	サル、シカ	被害の現地調査や対策検討会の実施。果樹の被害防止のためのワイヤーメッシュ柵を導入

- (4) 地域リーダーの育成
 - ・集落対策の中核を担う地域リーダーを新たに107名育成
- (5) 広域的な被害対策の実施
 - ・西臼杵地域3町の協議会で電気柵モニタリングシステムの実装

残された課題

近年、農作物の被害額は横ばい傾向であり、一層の減少を目指すためには、効果的で効率的な鳥獣被害対策の普及や、集落や市町村を越えた広域的な対策が必要

→ 引き続き、重点現地支援を強化するとともに、ICTを活用した鳥獣被害防止対策の実証・実装



鳥獣被害対策キャラバン



集落ビジョンの検討・作成



侵入防止柵設置研修



地域リーダー育成研修

捕獲対策部会

《被害状況に応じた適切な「捕獲対策」》

- (1) 生息状況等の把握
 - ・シカの推定生息数（R5）：約88,000頭（R4末：約86,000頭）
 - ・サルの推定群数及び生息数（R5）：99群 約3,100頭（R4末：99群 約3,300頭）
- (2) 適正な捕獲の実施
 - ・狩猟等による規制緩和（狩猟期間延長等）や有害鳥獣捕獲等を実施

	R元	R2	R3	R4	R5	R6（速報値）
シカ	27,537	26,891	29,604	25,565	26,113	24,060
イノシシ	21,438	21,627	20,624	21,939	21,055	23,544
サル	1,086	1,133	1,349	833	927	1,033

- (3) 捕獲体制の整備
 - ・狩猟者の確保・育成
 - ◆ 狩猟試験：年3回、延べ11会場で実施（うち4会場は休日開催）
 - ◆ 免許受験希望者を対象とした事前講習会、技術向上講習会等を実施
 - ・有害捕獲体制の整備
 - ・市町村と連携した有害鳥獣捕獲班等の捕獲活動への助成、安全・技術向上のための講習会等を実施

残された課題

生息状況等を的確に把握し、地域の実状に応じた効果的な捕獲対策が必要

→ 国有林や鳥獣保護区での県によるシカ捕獲や豚熱対策も踏まえたイノシシ捕獲を重点化



県民の狩猟への関心を高めるイベント開催（えびの市）



技術向上講習会

森林被害・環境対策部会

《中・長期視点に立った「生息環境対策」》

- (1) 多様で豊かな森林づくりの推進
 - ・「森林整備事業」及び「水を貯え、災害に強い森林づくり事業」を活用し広葉樹の植栽等や間伐に対する支援を実施
 - ◆ 植栽1,843ha（広葉樹を含む）、除間伐1,254ha
- (2) 適正な草刈時期の周知（のり面等の適正管理）
 - ・シカ等の侵入を防ぐため小さな金網で覆うマット工法等の導入を図るとともに、林道等の維持管理を行う市町村等に対し、8月までの草刈時期を周知
 - ◆ シカ等の侵入を防ぐのり面緑化工法の施工：林道13工区

＜森林被害防止対策＞

- ・人工林被害対策
- ・森林整備事業：防護柵整備508km（うち強化型防護柵184km、シェア36％）
- ・強化型防護柵・ネット下をスカート状に補強した柵（潜り込み防止）
- ・特用林産物被害対策
- ・しいたけ等特用林産物生産体制強化事業：侵入防止柵等290m

残された課題

野生鳥獣による被害を防止するため、防護柵の設置に加え野生鳥獣が生息しやすい森林環境の確保や、市町村道や林道で餌源となる緑層帯の減少に取り組む必要

→ 引き続き、広葉樹の植栽や除間伐による多様な森林づくりを推進するとともに、冬枯れを促す適正な草刈時期を周知



広葉樹植栽状況



植生マットとりのり面パネル



路肩の草刈の様子



強化型防護柵の設置状況



侵入防止柵（ワイヤーメッシュ）

捕獲鳥獣利活用部会

《捕獲鳥獣の地域資源としての「利活用推進対策」》

- (1) 需要状況・ニーズ等の把握
 - ・ジビエフェアによるニーズ把握
 - ・県内21店舗でジビエメニューの提供を行うなど「みやざきジビエ」をPR（11～2月）
 - ◆ フェア参加者の90％が「今後も食べてみたい」と回答し、関心の高さを確認
 - ・消費拡大イベントによるニーズ把握
 - ・10歳以下のサッカー選手と保護者（300名）に、独自の栄養プログラムを有する味の素（株）とコラボし、「アスリート食」としてのPRイベント等を企画（3回）
 - ◆ 試食した90％が「今後も食べてみたい」と回答。アスリート食としての有用性をPR
- (2) 衛生管理の向上
 - ・処理施設における衛生管理、人材育成
 - ◆ 解体研修：12月開催、27名参加（ジビエの衛生研修とシカの解体基礎研修）
 - ◆ 調理研修：10月開催、34名参加（ジビエの栄養成分や調理のポイント）
- (3) 生産流通体制等の確立
 - ・ICTを活用した罾の捕獲通知システムとジビエ処理加工施設が連動した取組を実施

残された課題

アスリート食をはじめ、ジビエの裾野を広げるためには、より良質な食肉の供給体制の構築が必要

→ ジビエの機能性に着目したアスリート食としてのPRや学校給食向けメニューの提案、国産ジビエ認証を取得した施設のジビエ販売の推進



ジビエフェアポスター



サッカー教室でのジビエ試食会



街市での鹿スープふるまい



著名なシェフを招いての調理研修